大学・短期大学の和裁教育における着装学習の実情について

大平光子*　三吉満智子**

A Study on the Education of Wearing Japanese Costume in Universities and Junior colleges.

Mitsuko Ohira　Machiko Miyoshi

1 緒言

近年，家庭での和服の着装技術の修得は必ずしも満たされない状況であることは衆知の通りであり，そのため着付教室での学習が増加しているのが現状である。従来大学における和裁教育はその裁縫技術に主眼が置かれる傾向であったが，民族服である和服裁縫の教育には，その美的効果の認識のためにも着装技術は欠かすことのできない分野となっていると思われる。そこで現在各大学・短期大学において，着装学習がどのようになされているのかを調査し，それをもとに今後の和裁教育のあり方を検討したいと考えた。アンケート調査の結果を報告する。

2 調査方法

調査方法は以下の通りである。

①調査対象校　国公立および私立の大学・短期大学のうち和裁開講校162校とした。

②アンケート回答者　各大学和裁担当教官に依頼した。

③調査時期　1980年4月10日～5月20日

④調査内容　表1に示す通り　1.着装学習の実施，非実施，2.着装学習の方法，内容，3.非実施の理由，4.和裁の履修単位数，着装指導時間数の各項目について回答を求めた。

3 調査結果および考察

アンケートの回収率は全体で71％（115校）であった。その内訳は図1に示す通りである。

得た回答を各項目ごとに集計した結果は以下の通りである。

1）着装学習の実施，非実施について

結果は115校中実施58％，非実施27％，“現在は実施していないが将来は実施したい”が15％であった。

2)-1 着装学習の方法

着装学習方法の集計は着装学習実施数(67校)を100％としてまとめた。

①実習と講義のいずれを主としているかについての結果は図2の通りである。実習しているところが91％を占めている。

②着装学習の時期については図3に示す結果

* 本学講師　被服構成学
** 本学教授　被服構成学

表 1

和裁教育における着装についてのアンケート

次のアンケートにご協力お願いいたします。

文化女子大学　大平光子

（ご回答は，該当する記号に ○ をお付け下さい。）

1．着装（着付け）学習をとり入れておられますか？

イ．実施している。　ロ．実施していない。　ハ．現在は実施していないが将来はとり入れたい。

2．1の質問で イ．と回答していただいた場合には，次の質問にご回答下さい。

2－1．着装学習にどのような方法をとっておられますか？（③，④，⑤の質問は2つ以上 ○ 印がついても結構です。）

① 実習と講義のどちらを主になされていますか？（イ．実習　ロ．講義）

② どのような機会になされていますか？（イ．実習作品完成時　ロ．実習作品完成時に関係なく　ハ．その他く　　〉）

③ 担当なさる先生は　（イ．和裁担当教官　ロ．外部からの着つけ講師　ハ．その他く　　〉）である。

④ 着装のモデルは　（イ．学生　ロ．着付け用ボディ　ハ．その他く　　〉）でおこなう。

⑤ 着装の講義には

（イ．和裁教科書　ロ．着付けのためのテキスト　ハ．図解プリント　ニ．スライド
ホ．ビデオテープ　ヘ．実技の示範　ト．その他く　　〉）を使用している。

2－2．着装学習の内容についてどのようなものをとりあげておられますか？

（A表，B表，それぞれに該当する枠の中に ○ 印を記入して下さい。）

A 表

和装の種類	実習	講義・示範のみ
浴衣に半巾帯		
ウール・紬・小紋等に名古屋帯		
振袖に袋帯		
留袖に袋帯		
訪問着に袋帯		
（その他ございましたら具体的に品名をご記入下さい。）		

B 表

帯結びの種類	実習	講義・示範のみ
文庫結び		
ヤの字結び		
お太鼓		
二重太鼓		
つのだし		
ふくら雀		
（その他ございましたら具体的にご記入下さい。）		

3．1の質問で ロ，ハと回答していただいた場合には，次の質問にご回答下さい。

着装学習をとりあげておられないのは何故でしょうか？

イ．時間数が不足である。

ロ．必要性を感じない。

ハ．その他ございましたら具体的にご記入下さい。

（　　）

4．貴校の和裁の履修単位数，および着装学習を実施しておられる場合には1年間に使用する時間数をお教え下さい。

（必修・選択・教職必修の別および使用時間数は ○ 印でお囲み下さい。）

科目名	単位数	履習方法	1年間に着装学習に使用する時間（45分～50分を1時間としてお答え下さい。）
		必・選・教必	1・2・3・4・5・6・7・8・その他（　）
		必・選・教必	1・2・3・4・5・6・7・8・その他（　）
		必・選・教必	1・2・3・4・5・6・7・8・その他（　）
		必・選・教必	1・2・3・4・5・6・7・8・その他（　）

大学名		ご回答者名	

（おさしつかえがあれば無記名でも結構です。）

ご協力ありがとうございました。

であった。作品完成時に指導している学校が70％を占めている。

③着装指導担当者については図４に示す結果であった。和裁担当教官が76％となっている。

④着装指導時のモデルは図５に示すように，学生が73％を占めており，実際に着装を経験させていることがうかがえる。

⑤着装指導の講義はどのように行なわれているか，テキストは何を用いているかについては図６に示す結果であった。実技示範のみで講義をすすめているところが69％と最も多く，実技示範に教科書，テキスト等を併用しているところは８％のみであった。また併用している図解プリントは殆んどが担当教官の作成したものである。

2)-2　着装学習の内容について

着装学習の内容は和装の種類と帯結びの種類に分けて質問した。

学習内容として取りあげられている和装の種類別に実習，講義，非実施の状況をみてみると図７に示すとおりである。

最も多く実習されているものは“浴衣に半幅帯”次いで“ウール・紬などに名古屋帯”の順である。

学習内容として取りあげられている帯結びの種類について，種類別に実習，講義，非実施の割合いをみたものが図８である。文庫結びは実習，講義のいずれかで100％の学校で取り上げられていることがわかる。太鼓結びは両者併せて83％で取りあげられている。

着装の種類，帯結びの種類について，１つの学校で，幾つの種類を指導してるかをみたものが図９および図10である。着装の種類では，“浴衣に半幅帯”と“浴衣に半幅帯＋ウール・紬などに名古屋帯”の学校が各24校（35％）と最も多くなっている。帯結びの種類では図10のよう

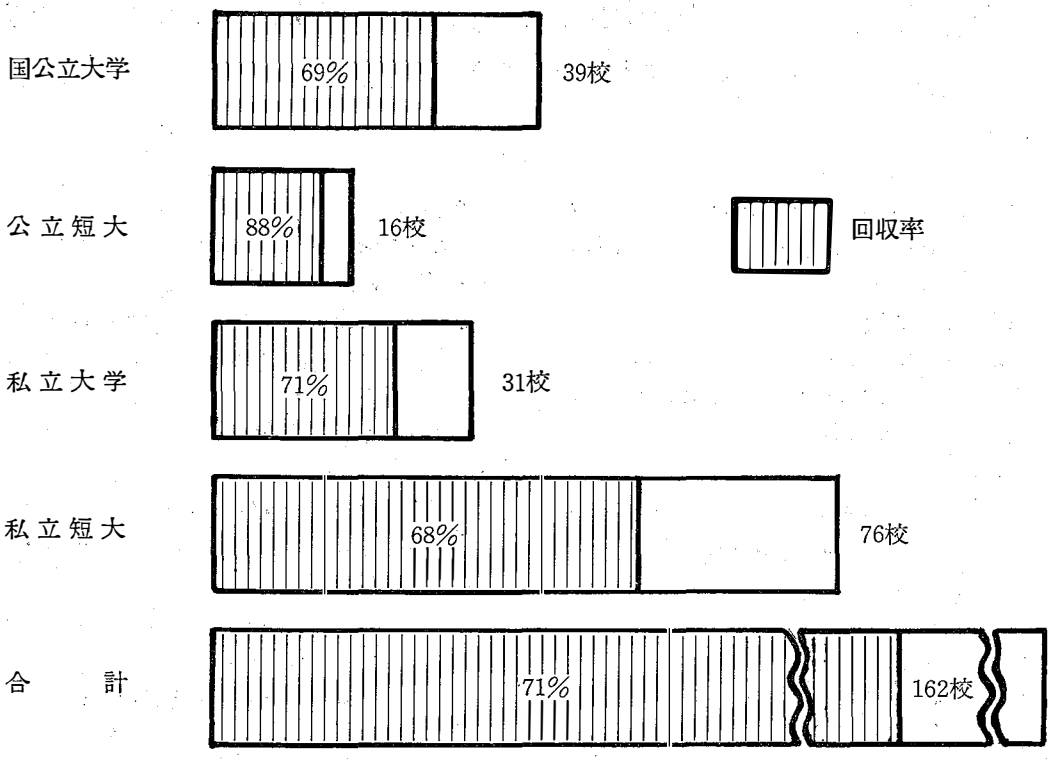

図１　アンケート対象校および回収率

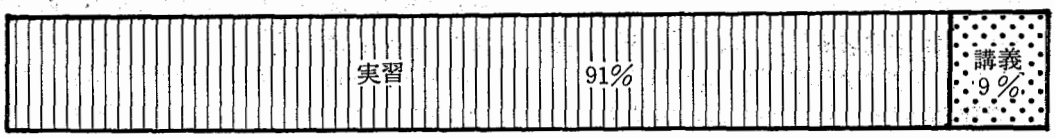

図2　着装学習の方法

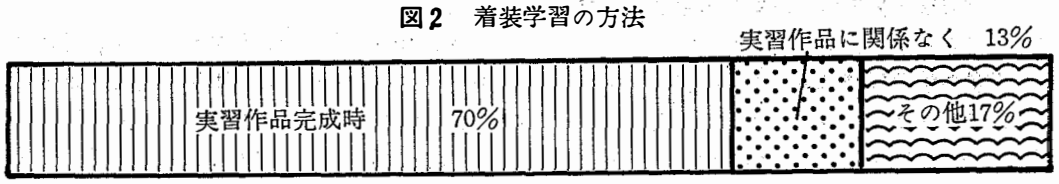

図3　着装学習の時期

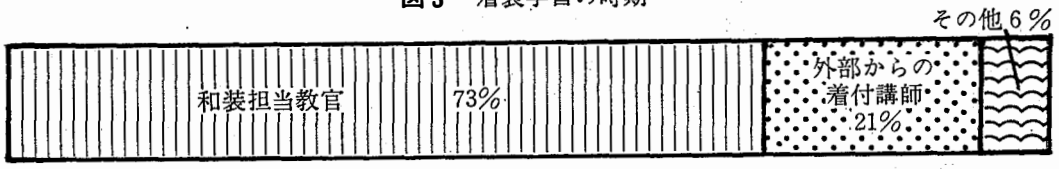

図4　着装指導者

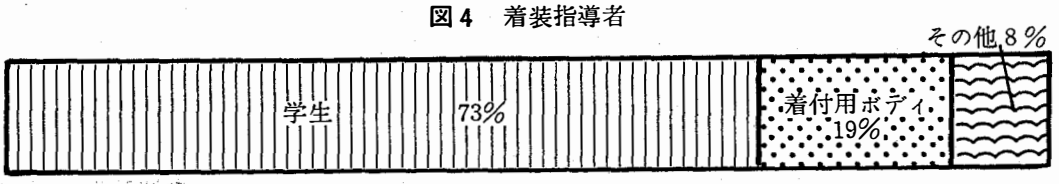

図5　着装指導のモデル

に，“文庫結び＋太鼓結び”をおこなっているのが36校（54%）と最も多く，次いで文庫結びのみとなっている。

3）非実施の理由について

着装学習非実施の理由についてまとめたものが図11である。集計は非実施の学校48校についての割合いを求めてある。

時間数の不足を理由としているものが69%と最も多く，“必要性を感じていない”のは12%であった。これは全回答の5%にあたる。

その他の理由の中には次のような記述があった。

・自宅通学の学生が少なく，そのため着装に必要とする付属品の準備が大変である。

・担当者がなく本年度より廃止した。

・以前は実施していたが，年々学生の実習速度が落ちてきたことと，他で習うことができるのでやめた。

・着付教室に通っている学生も多くあり，テレビ等での指導もあるので。

また一方現在は実施していないが，将来（昭和56年度から）実施の学校が15%あり，その理由として次のことが挙げられていた。

・各自の寸法を正確に知るとともに，和服製作の理解をたすける。

・学生が製作より着装に興味を持っている。

・和服を理解するためにも製作から着装まで一貫した授業が必要である。

以上のことから非実施校でも全く否定的な学校はごく少ないと考えられる。

4）和裁の履修単位数および着装指導時間について

和裁の履修単位数は，着装指導実施校と非実施校に分けて集計した。結果は図12の通りであ

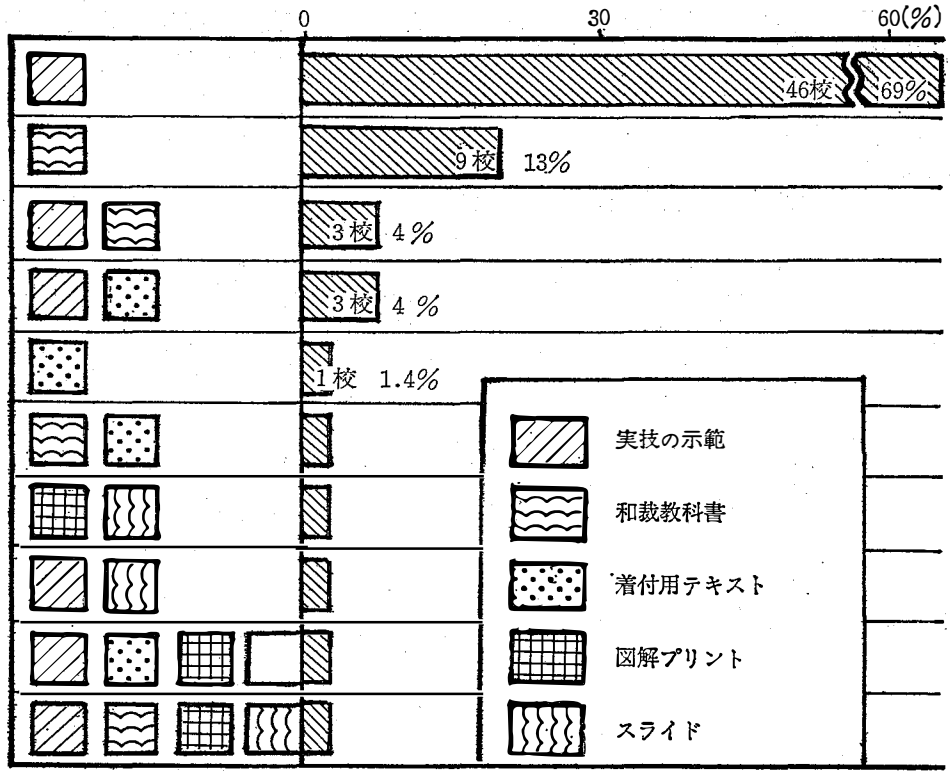

図6　着装指導講義の方法

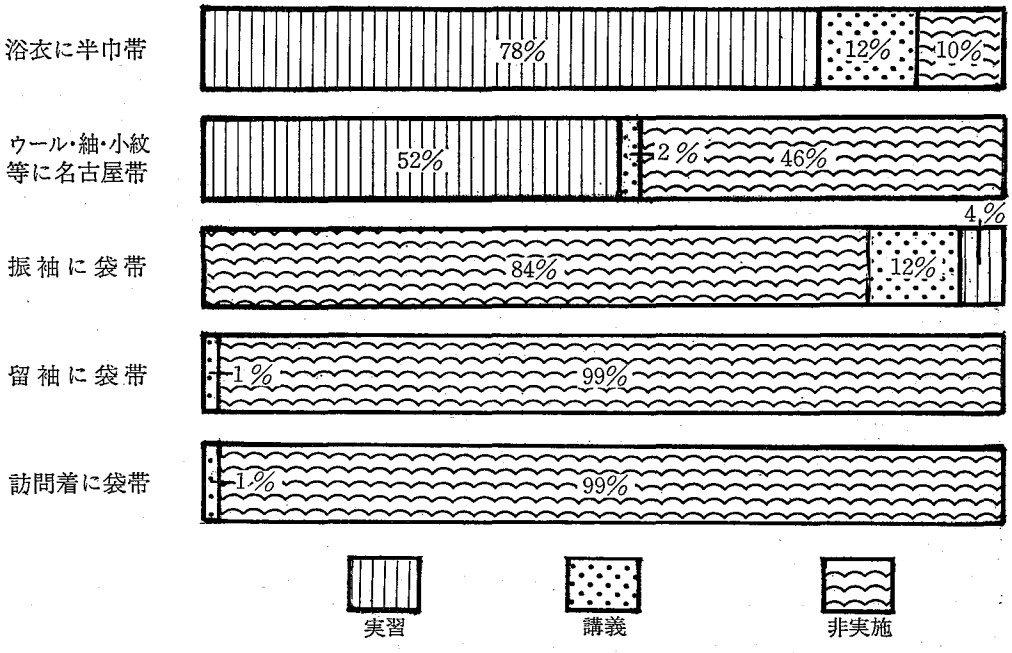

図7　取り上げられている和装の種類

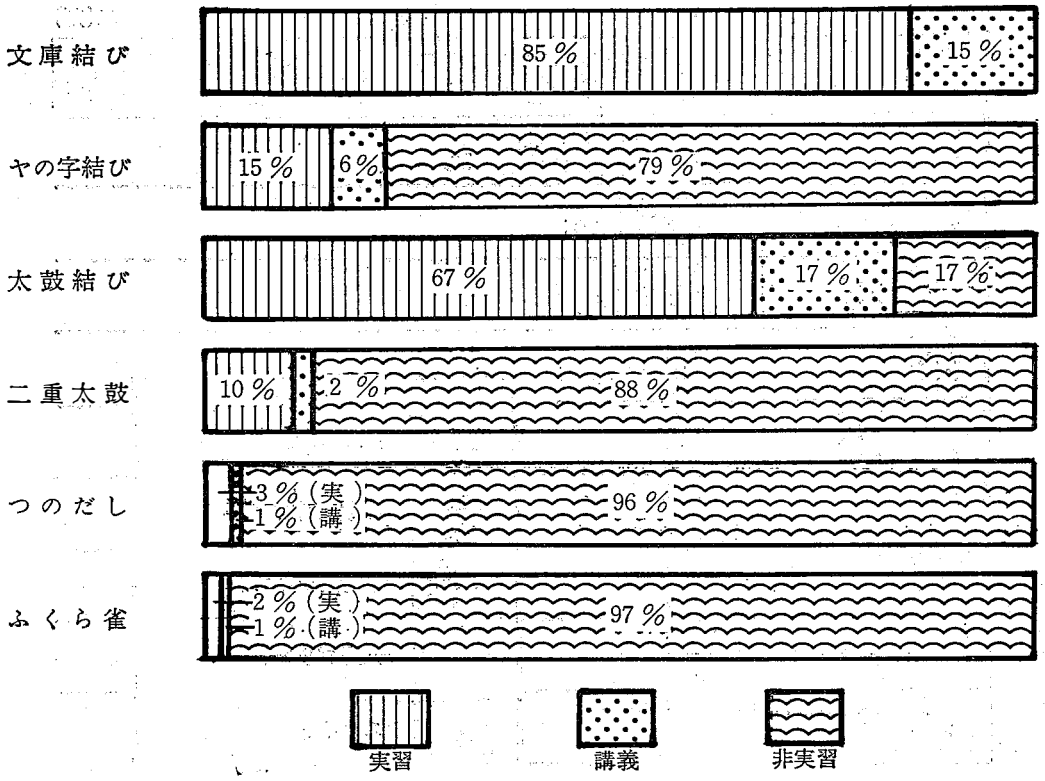

図 8　取り上げられている帯結びの種類

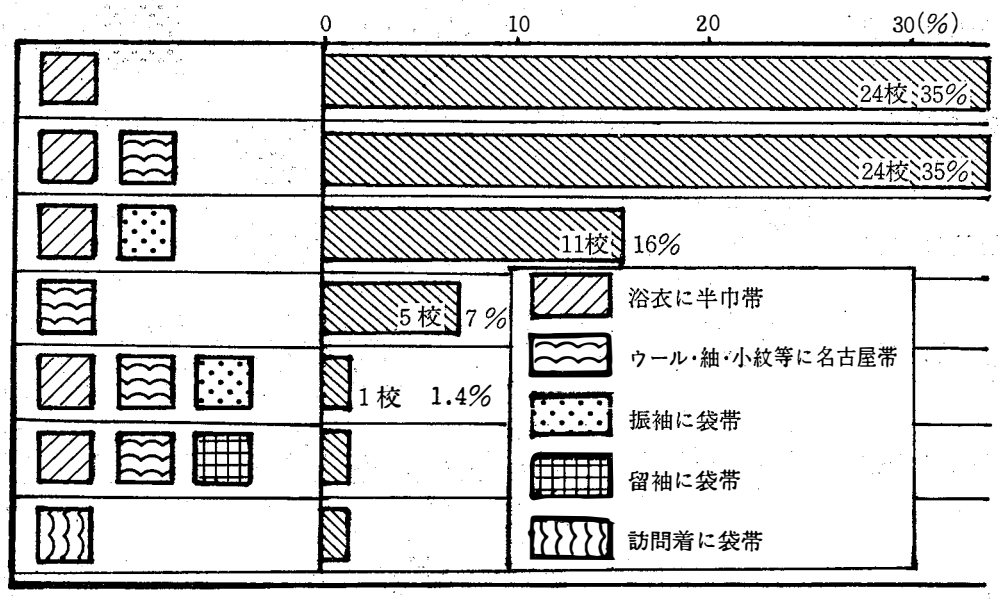

図 9　和装の種類の各学校での実施状況

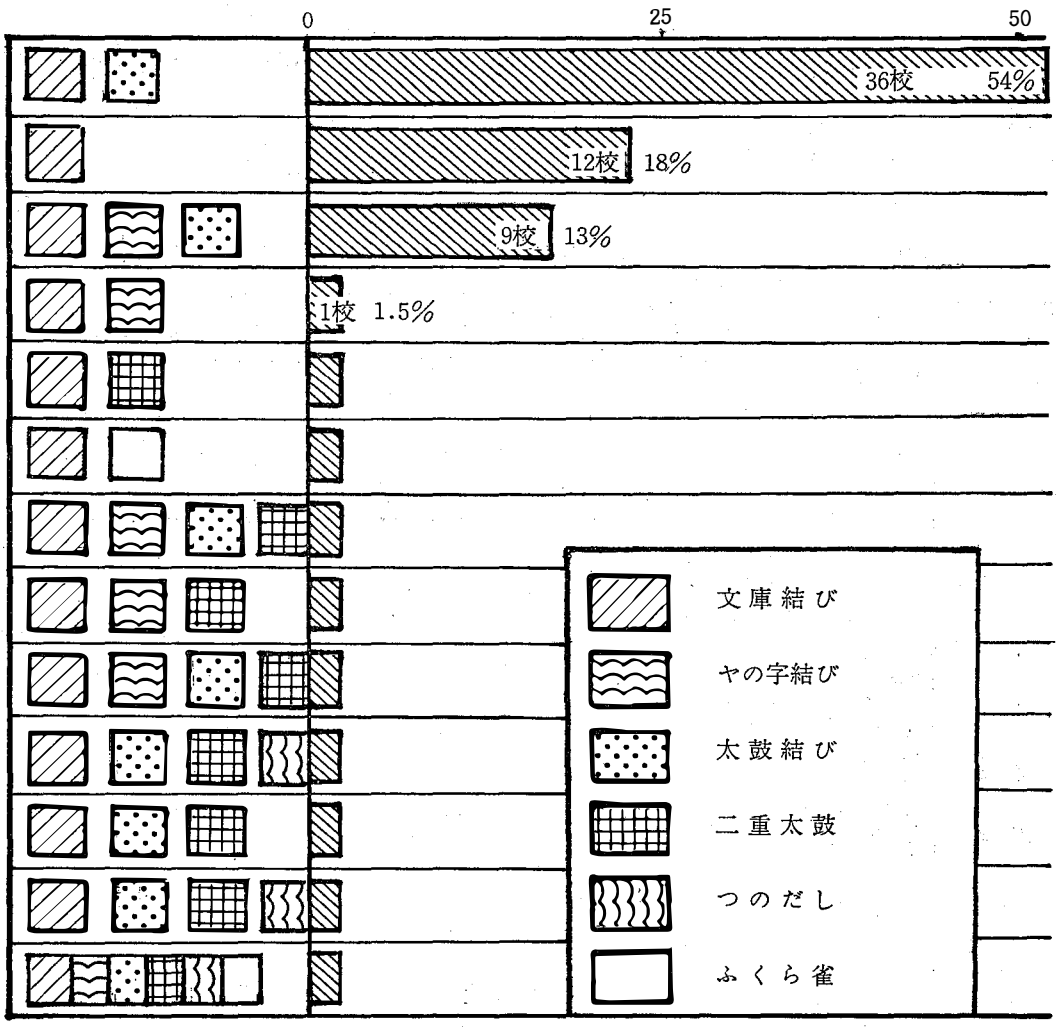

図10 帯結びの種類の各学校での実施状況

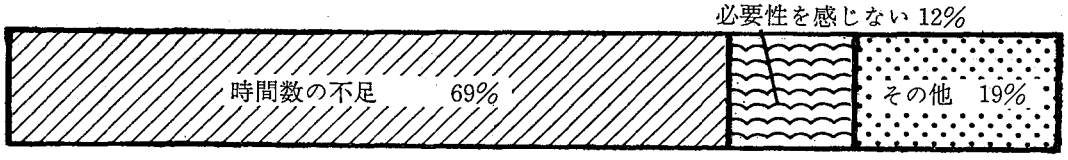

図11 着装学習非実施の理由（非実施校48校の内訳）

る。実施校では2単位が最も多く，和裁の単位数が4単位以上ある学校は21%，非実施校では同じく4単位以上あるのが55%となっており，非実施校の方が全般的に単位数が多く，平均単位数でも実施校2.4単位，非実施校2.9単位と非実施校の方が多い。

着装指導時間数は図13に示すように2時間使用している学校が最も多く30%あり，平均使用

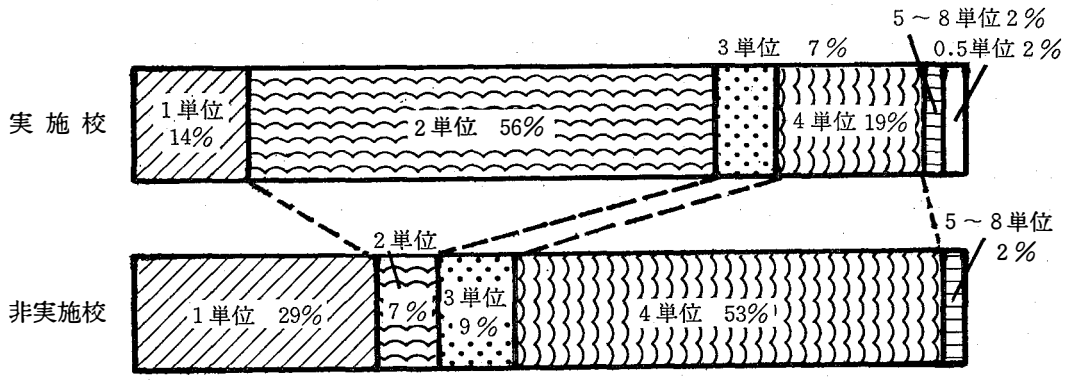

図12 和裁履修単位数

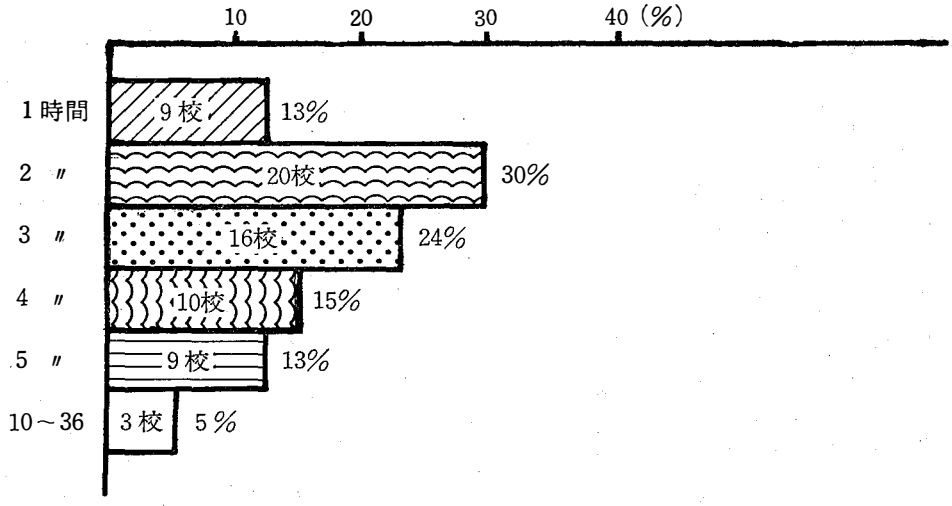

図13 着装学習使用時間数

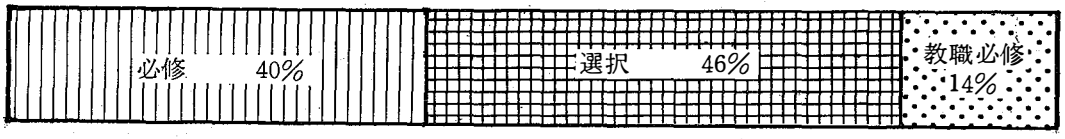

図14 総科目数に対する必修選択などの割合

時間数は3.2時間であった。

和裁に関する科目の必修，選択，教職必修の別については，総数（195）に対する割合で求めた。結果は図14の通りである。必修と選択とはほぼ同数になされており，教職必修の割合は全体の14%になされている。ただしこの場合の教職必修の中には単に教職必修として設置されているものと，自由選択でありかつ，教職必修であるものが含まれている。

必修，選択，教職必修の組み合わせ別にみると図15に示す通りである。3科目設置のところが10校，2科目設置のところが81校，1科目が24校であった。この図から1科目以上必修科目を持っている学校が82校（71%）あることがわ

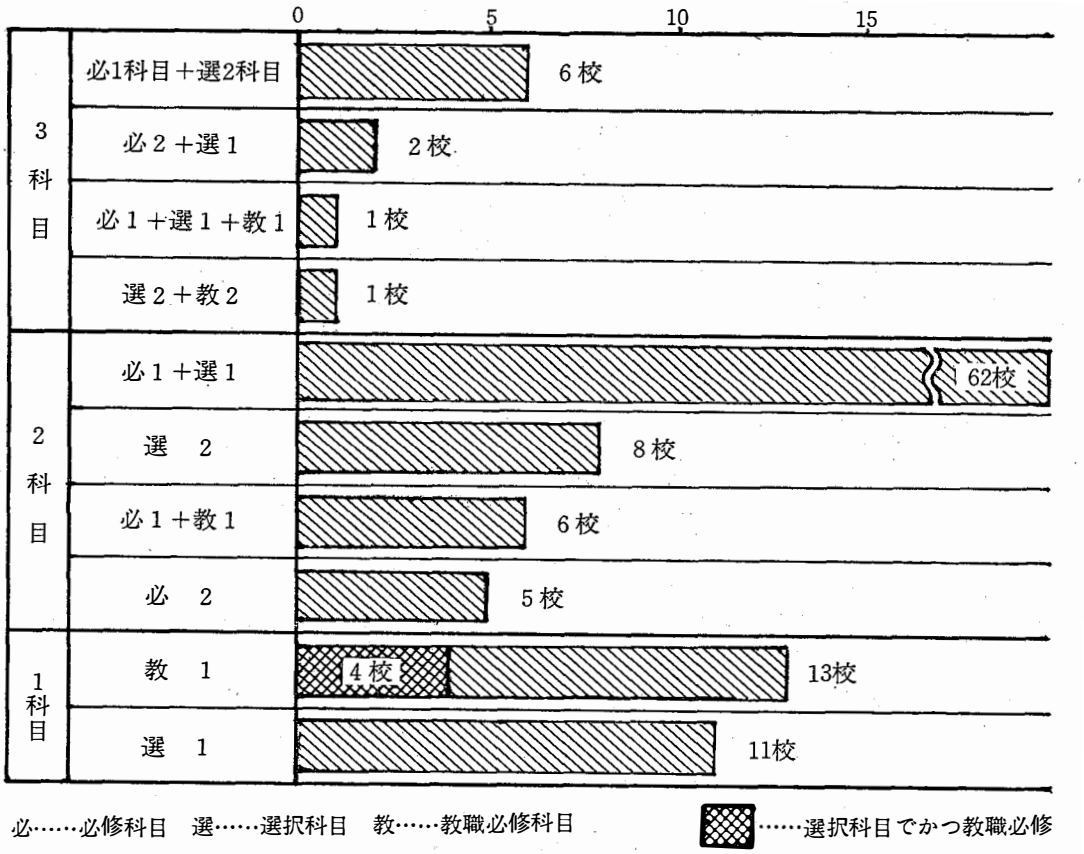

図15　各学校の和裁科目の必修、選択、教職必修の組み合わせ

かり，このことから被服関係学科では和裁が基本的な主要科目とみられていることがうかがえる。また，全体として科目数の少ない学校ほど教職必修科目として和裁を設置しているという状況がうかがえる。

4　総　括

依頼数 162 校から回答総数 115 校で，71％の回収率は，新学期の多忙な時期にあっては高い回収率を得ることができたと思われる。

着装学習の実施状況については，実施校58％，非実施校27％，将来実施希望が15％であった。

非実施校，将来実施希望校の，現在実施できない理由は図11に示したように時間数の不足が最も多く，またその他の理由の記述からみても，実施したいが諸般の事情でできないでいる，また止むなく廃止したとの内容が殆んどを占めている。一方将来実施するという学校のおおかたは，和服についての理解を深めさせるためにも製作から着装まで通して教育することが必要であるということであった。

実施を必要としないとする学校は全体の５％で（６校）であったが，その中の５校は時間数の不足を挙げている。１校は，大学での和裁はむしろ被服衛生学的な内容が重要で，着装は着付教室にまかせればよいとの理由であった。

これら全体をまとめてみると図16のように現在の非実施校も含めて98％の学校が着装学習に肯定的であるといえる。

実施校は時間が十分あるかという点では図12に示したごとく，むしろ履修単位数平均は非実

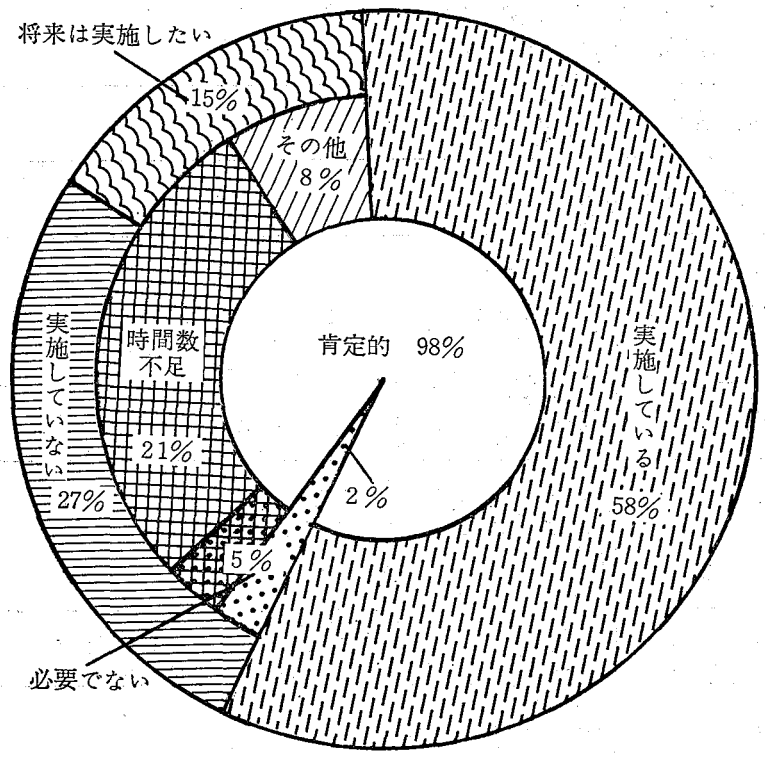

図16　着装学習の実状

施校の方が多く，アンケート中にも実施校の時間不足が多く訴えられていた。つまり実施校では少ない時間の中で着装学習を取り入れているといえる。

着装指導の方法をまとめてみると，多くが（91%）実習を主とした指導をしており，製作実習作品の完了時にそれがおこなわれているものが70%であった。その他課外活動や，有志が集まって同好会的におこなったり，卒業前に特別の機会を設ける等もあげられていた。

指導者は和裁担当教官が73%となっているが外部から着付講師を依頼するところが21%と意外に高い数字になっていた。

着装指導の講義の方法は，実技の示範と説明のみが69%と非常に多く，テキストにも教師の作成するプリントが使われており，適切なテキストの少ないことが推測される。

着装指導の内容では，浴衣に半幅帯が最も多く取りあげられており，次いで日常着用されるウール・紬・小紋に名古屋帯が多く取りあげられていた。したがって帯結びの種類では文庫結びが全実施校で取りあげられており，次いで名古屋帯または袋帯による太鼓結びであった。

このような着装指導には，40分～50分を1時間として平均3.2時間が使われており，2時間から4時間の間で多くの学校は指導をしているといえる。

以上のことから現在おこなわれている着装指導のおおかたは，実習作品である大裁女物単衣長着の製作終了後に，3時間程度の時間を使って，実技示範をしながら，半幅帯で文庫結び，名古屋帯で太鼓結びを実習している，ということができる。

今回のアンケートのまとめは以上の通りであ

るが，回答に伴い種々の記述をいただいた。2～3挙げると次の通りである。

・時間不足の原因として，年々学生の作品製作速度が落ちている，必要寸法の採寸についても理解がおそく，そのために時間がかかること，それに加えて普段和服に接する機会が少ない学生が多いことから各部の名称の理解にも時間がかかる，等が挙げられていた。

・少ない時間の中で指導効果を上げる方法として，標準寸法で仕立てた長着を，伊達締めをするところまで着装させて，各自の寸法，名称等を理解させ，そのあとで製作にはいる，また着装に必要は付属小物類を人数分学校に備えつけておく，等の工夫，配慮をしているところがあった。

今回の調査から，多くの和裁担当教官は，大学・短期大学の被服関係学科に学ぶ学生に対しては，和服についての基本的な構成技術と着装については修得させることが望ましいと考えていると汲みとれた。

また，文部省中学校技術家庭科指導要領の中では，民族服としての和服の用途，種類，材質に関心を持たせるようにするとあり，高等学校学習指導要領の被服製作の分野で着装指導の重要性が述べられている。そのことからも教職課程履修者に対しては，着装学習は必修条件として考えてよいのではないかと思われる。

本学ではすでに着装学習を取り入れているが教職必修であるという科目の性質を生かして，このアンケートからいただいた貴重な意見を参考とし，今後充実した教育内容を組みたいと考えている。

終りに本アンケート調査回答をお寄せいただいた諸先生に深く感謝いたします。

参考文献

文部省：中学校学習指導要領，大蔵省印刷局　昭和54年

文部省：高等学校学習指導要領，大日本法命印刷株式会社　昭和54年